知事就任挨拶　　昭和五十八年四月二十三日

親愛なる道庁職員の皆さん、新しい知事として、皆さんと共に仕事をしていくことになりました横路孝弘です。どうぞよろしくお願い致します。

多くの道民の皆さんのあたたかい御支持によりまして、北海道知事としての信任を頂きました。いま、就任の時をむかえて、五百六十万をこえる道民のみなさんの生活を守るために、私に課せられた責務の重さを、あらためてかみしめております。この道民の皆さんの負託にこたえて、その任務を全うするために全力をつくす決意でございます。

職員の皆さんも、今までそれぞれの現場で御苦労されてきたと思います。住民の皆さんからの要求も多様化し、かつ増大している一方で、厳しい財政事情などの中でいろいろ大変だったと思います。

（当面の課題

現在の北海道は、皆さんも御承知のように、たとえば農業は減反や自由化の問題、漁業は二〇〇カイリ適用の問題、石炭産業の再建の問題、ローカル線廃止反対の問題、あるいは構造不況の問題等、たくさんの問題をかかえておりまして、どれをとってもその順調な解決策はなかなか簡単に見いだせるものではございませんけれども、しかし道民の皆さんのすべての知恵と力を結集していけば、必ず道は開かれると考えております。

北海道は、先住民族でありますアイヌ民族の皆さんの長い歴史、文化をうけて、厳しい自然と闘いながら、自らの人生と社会を築いてきた数多くの開拓者の人たちの手によって創られた地域社会であります。いま、この心をよび起し、道民の皆さんと希望を持って共に行動すれば、どんな困難も克服していくことができると信じております。

もとより私一人の力は大きくはありません。新しい北海道づくりの要となる職員の皆さんの御協力を心からお願いするものであります。どうかお力をお貸し頂きたいと思います。

（道政への道民の声の反映

私は、これから職員の皆さんと、道政の苦しみや喜びを共にするわけですが、憲法の保障する地方自治の精神に基づいて、道政の基本として特に次のことを訴えたいと思います。

第一に、できるだけ多くの道民の皆さんの声が道政に反映できるように、努力していきたいと思います。たとえば、私が公約にかかげました「市町村サミット」では、市町村長さんやその住民の皆さんとの対話、経済問題では、経済団体や産業界の皆さんとの交流、農業問題は、農業団体や農民の皆さんとの話しあい、福祉や教育問題でも多くの方々との対話を深め、協同でよりよいものを作り出していくという、そんなシステムを保障し作りあげていくことが大切だと思い

ます。「お役所仕事的」とか「官僚的」とかいう言葉は、悲しいことに役所の仕事のマイナスイメージを語ってきました。私は、道庁の仕事がそんな陰口を道民の皆さんからたたかれることのないように、自らを戒め、又、職員の皆さんにも、明るく開かれた道政実現のための努力をお願い申し上げたいと思います。道民の皆さんと接する一つ一つの現場で、親身な対話があることが、地方自治、そして民主主義の基本だと考えております。

科学的合理的行政の推進

もう一つは、科学的合理的な行政への努力が大切だと思います。現代は、「計画行政の時代」ともいわれています。行政に計画性をもたせ、道民の皆さんがくらしの見とおしを立てることのできる安心感ある道政を実現していかなければなりません。そのためには、行政がもっともっと科学性をもち、道民の皆さんに責任のある情報とプランを提供していく体制というものを確立していくことが不可欠だと考えております。

大いなる転換期

私たちは、今、大きな転換期に立っております。急速な技術革新の波であるとか、高齢化社会の到来であるとか、高度情報社会の始まりであるとか、国際化への対応であるとか、これまでの行政のあり方を着実に変えていかなければならない側面が増大してきております。ですから、私たち行政を担う一人ひとりが、自らを常に革新し、創造性を豊かにしていくことが求められていると思います。なにごとも拙速主義や進取気取りであってはなりませんが、時代の変化を見定め、確実な行政の改革を行う勇気と実行力を欠くことがあってはならないと思います。同時に無駄の点検を行い、自らの襟を正していくことも大切だと思います。縦わり行政のみに依存せず、各部のチームワークや、人材の適材適所も、徐々に考えていくつもりでおります。

道庁の職場の中が明るく、職員同士が、又、知事である私と職員の皆さんが気軽に語り合える職場環境づくりを今まで以上にお互い努力していきたいと思いますし、働きがいのある活気ある道政を共に作ってまいりましょう。

静かなる改革

公約の実行、政策の実現は、もちろんこれから四年間、皆さんと共に、ゆっくり着実にやっていかなければなりません。しかし、行政は継続性のあるものでございますから、良い点は伸ばし、悪い点は徐々に改めていくという態度で「静かな改革」を行っていく決意でございます。細かいことについては、おいおいお話し合いする機会を作りますので、政策の基本だけを一言述べたいと思います。

道民が誇りと希望のもてる北海道を創ろう、私たちが子供や孫の時代に自信を持って引き継ぐことのできる北海道にしよう――という願いは、この地方自治の場を、自ら誇りうる仕事として選ばれた職員の皆さんと私の共通の願いだと思います。

そんな北海道をつくるために、第一に北海道の経済の自立をはかるための努力をもっともっと行っていきたい、このように考えております。第一次産業を基盤にしたすそ野の広い産業体系を作り、工業部門では、新しい技術革新に対応しながら、組立加工、先端産業の企業の導入に努めると同時に、地場産業を育成し、北海道で働く場所を確保していくために努力していきたいと考えております。二百十二の市町村の生き生きとした町づくり村づくりを地域産業と結合して積極的に推し進めていきたいと考えております。

〔北海道経済の自立〕

第二に温かいぬくもりのある社会、地域格差の解消につとめ、だれでもどこでも安心して暮らせる地域社会づくりをめざしていきたいと思います。医療、年金、福祉の分野をはじめ、行政ができるだけ画一的にならず、柔軟に対応できる努力を皆さんと一緒にしていきたい、このように考えております。

〔温かいぬくもりのある社会の実現〕

第三に、世界に開かれた北海道として、国際会議や、芸術、文化、スポーツの交流、自治体独自の北方圏交流や、あるいはアジア地域との南北交流など、世界の平和を切り開く気概と誇りを持てるようにしていきたい、このように考えております。

〔世界に開かれた北海道〕

これからの課題にむかって、今日、船出をするわけですが、行政については、皆さんの方が玄人でございますから、私はこれから皆さんの御意見に謙虚に耳を傾け、職員の皆さんの御意見や知識の吸収に、一日も早く努めて参りたいとこう考えております。同時に、これまで十三年間、国会議員として働かせていただいたことを生かして、国との関係も、多くの方々のお力をお借りして協力関係を強化しながら、同時に主張すべきことはきちんと主張し、身軽にかつ大胆に行動する知事として、がんばりたいと思っております。

今までも行政担当の人たちと気軽に話し合える人間関係を作ってきたという経験もございますし、今後も人と人とのつながりを大切に仕事をすすめていきたいと考えております。いずれにせよ、仕事は人であり、人は、人の中で生き、同時に生かされていくものですから、職場を自由な明るい環境にし、気ばらず、あせらず、しかし着実な行政を一緒に進めて参りましょう。

最後になりましたが、職員の皆さんと共に、昨日退任されました堂垣内前知事、前副知事の寺田さんに心から感謝と御慰労を申し上げたいと思います。そして、この静かなる船出のために、さまざまな御配慮をいただきましたことを、特に私の立場から御礼を申し上げたいと思います。堂垣内さん、寺田さんの今後の御健勝をお祈り申し上げますと共に、今後共、道政の発展のためにお力をお貸し下さいますことをお願い申し上げまして、私の就任の御挨拶と致します。ありがとうございました。